

いしきを 学ぶ会 Vol.3



イラスト：いしまるほずみ

2018年

18:30～（受付：18:00～）

6月16日（土）

会場：長崎市立図書館新興善メモリアルホール

参加費：無料（参加申し込み不要）

おはなし：魚住昭三 弁護士（石木ダム対策弁護団）

映画「ほたるの川のまもりびと」（20分ver）の上映

長崎県川棚町こうばる地区。ここにダム建設計画があります。計画が進むと、この地区で暮らす13世帯は故郷を奪われてしまいます。ダムは必要なのでしょうか。今回は、石木ダムを止めるための裁判について学びます。石木ダム事業認定取り消し訴訟の判決が7月9日に言い渡されますが、裁判の流れや判決が出るとどうなるのかなど弁護士のお話を伺います。また皆さんからの質問も受け付けます。何でも構いませんので、裁判について知りたいことをお聞きください。

問合せ：「いしきを学ぶ会」実行委員会 095-884-1007（森下）

石木ダムの問題点

石木ダム事業は以下の問題点を抱えています。ダムを造る必要はありません。

1. ダムを造る理由は失われている！

① 利水面：佐世保市の水は足りている

石木ダムの目的の一つは佐世保市への水の供給ですが、誤った水需要予測に基づいています。近年の佐世保市の水需要は減少の一途を辿っており、ダムの水を必要とはしていません。

② 治水面：石木ダムは川棚川の治水対策として不要

もう一つの目的である川棚川での洪水防止ですが、河川改修が進んだことにより、城山公園下の改修が済めば過去最大の洪水が来ても溢れずに流せます。これは中村法道長崎県知事も認めています（2014 年 7 月 11 日、川棚町川原公民館）。下流の内水氾濫はダムでも防ぐことは出来ません。

2. ダムを造るとどうなるのか

① かえって洪水の危険が増す

想定以上の大雨でダム湖の水が満水状態になると、洪水調節が出来なくなり、ダムは緊急放流します。そのためダムの下流では大雨による水とダム放流の水が一気に押し寄せ、水位が一気に上昇し洪水が発生します。ダムを造ると下流はかえって危険です。

② 豊かな自然環境・地域社会が失われる

ホタル祭りで有名な川原地区の豊かな自然環境とその自然と結びついた 13 世帯の人々の生活もダム建設によって水没し、失われてしまいます。この失われるものの価値はお金に換えることは出来ません。



③ 川棚川・大村湾への悪影響

川の水がダムによってせき止められることで様々な悪影響が発生します。ダム湖ではヘドロや異臭が発生します。またアオコの発生も予想されます。ダム湖の水が下流に流れて、川棚川・大村湾の水質は悪化します。また土砂や栄養分の供給もストップし、漁業への悪影響も考えられます。

④ 土砂が溜まってダムは使えなくなる

ダム湖に流入・堆積する土砂により、ダムはいずれ、その機能を果たさなくなります。

⑤ 総事業費 285 億円で足りるのか

石木ダム事業の現在の総事業費は 285 億円。熊本県で中止になった川辺川ダムの事業費は当初 350 億円でしたが、最終的には 2650 億円になりました。石木ダム事業も今後、資材費の高騰などで建設費は大幅に増えることが予想されます。

⑥ ダムは人権侵害、民主主義と逆行する

そのような目的が失われ、問題だらけの石木ダム建設を、地域住民への十分な説明や水没予定地・川原地区の住民の合意なしに、13 世帯約 60 名の家や田畑を強制収用までして長崎県は進めようとしています。これは人権侵害以外の何物でもなく、民主主義に逆行するものです。

今からでも遅くはありません。長崎県民が本気になればダムを止められます。